

合成樹脂加工の金型から組立まで一貫受注 小廻りのきく技術力で常時1,300アイテムを生産 次のターゲットは東南アジア

由布合成化学



メインでプラスチック成型を行っている武蔵工場

ブリー済みの状態で納品する「一貫受注」は今でこそ珍しくないが、当初は先駆的な取組みだった。同社のモットーは「小廻り」。新しい案件は直ちに試作したり手を貸したりして、大手より短時間で動く。さらに、顧客に対して部品点数の削減や加工工程の省略といった異なる立場からの発想を活かした『逆提案』も得意とする。

由布合成化学(大田区中央、藤原義晴社長、03・3775・0130)は、合成樹脂加工の金型から組立まで一貫受注できる技術力で、電気周りの各種部品を中心に手がけている。

大手メーカー系列ではなく各社共通アイテムが中心なので、扱う分野は多岐にわたり、技術力を活かせる特長的な製品が多い。自動車、新幹線、船舶などの乗り物や、ビデオカメラ、パソコン、携帯電話などの家電製品で使われるコネクタ、センサー、表示部品、あるいは信号機や駅の列車案内板：同社の製品は身近に幅広く使われている。常時生産品だけで約1,300アイテムあり、全体の約3割が精密電子部品関連だ。最近では、ハイブリッドカーやプラグインハイブリッドカー等、最先端分野の受注にも積極的である。

金型・成型・組立の3本柱、金型の設計・製作から受注しアッセン

日出工場

も新設し

て生産効

率を向上

させた。

海外展開

にも熱心

で、平成

8年のマ

レーシア

進出に始

まり、平

成15年に

は香港と

中国の珠

海に進出

した。平

成25年に

はタイの

新工場が

稼働し、

今後の海

外拠点と

する。



タイの新工場



マレーシア工場



中国・珠海工場

今後は、海外比率を3割から5割まで高めて、東南アジアをターゲットにさらなる展開を図っていく